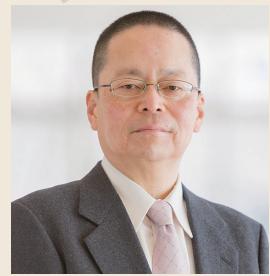




[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
https://www.nuis.ac.jp somu@nouis.ac.jp



新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

私が育った愛媛県は教育に関しては変でした。自分は転校が多かったのですが、県内共通の風習がいくつかあります、高校卒業後、他県出身者と接するようになってから、あれらは愛媛だけだったのかと気づきました。

いかなんと思ひます」とか。すると越智君は起立して「おもろかっただでやりました。先生ごめんなさい。みなさん、ごめんなさい」と2回お辞儀して謝るのです。地獄の光景ですが、愛媛では当たり前に石を投げて遊んだりました。

悪行をばらすのです。たとえば「昨日、越智君は学校の池に石を投げて遊んだりました」という奇習もありました。パベないと、これまた教師にチクられるのです。僕は小学校のころなぜか給食のパンがほとんど食べられなかつたので、いつも給食はつらい時間でした。

ほかにも給食での三角食べん、おかげ、牛乳を順番に食べないと、これまた教師にチクられるのです。僕は小学校のころなぜか給食のパンがほとんど食べられなかつたので、いつも給食はつらい時間でした。

悔い残さぬよう

身の丈に合った目標を！ — 幸せな1年を送るために —

これらから得た教訓というの
は、人間、あんまり反省することはない、

うになつてから、あれらは愛媛だけだったのかと気づきました。

たとえば小学校の「反省会」

また3学期が始まると新年の目標を書かされました。これ

も悲惨で、適当なことを書くと怒られるのです。「背泳ぎができるように」あたりでは許してもらえず、かといって「世界征服」などと書くとかなりの確率で体罰が待つていました。「清い心をもちたい」とか崇高なものをお求めくるのです。もちろんそれらの目標が年末に達成され



ることで、無駄に高い目標を決めて疲れるだけだし、偏食しても生き延びるのは不可能です。おせち料理も好きなものだけ食べて、あとは誰かにまかせましょう。そのほうが幸運な一年を送ることができます。新年のご挨拶として適切かどうか不安ですが、人生、そんなもんだと思います。今年もよろしくお願ひします。

CONTENTS

(2・3面)

開学30周年記念事業
教員の活動

(4面)

海外実習・夏期セミナー報告会
企業懇談会

5面

堀川祐里講師の著書
「戦時期日本の働く女たち」がW受賞
国際理解講演会
学生通訳ボランティア
5年度表彰奨学金授与式

6面

自然電力(株)との連携寄付講座スタート
在外研修報告
(7面)
食と農 SDGsプログラム
クラブ紹介 軟式野球部
こどもワークショップ

8面

ふるさと納税返礼品 開発プロジェクト
新潟市長に成果報告
北信越学生陸上競技選手権大会
400mで3位に入賞
にいがたデジコングランプリ
プログラミング教育部門でグランプリ



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



Instagram



X (旧 Twitter)
@nouis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

公開討論会 世界の語り方

公開討論会は「世界の語り方」をテーマに2023年12月2日、中央区の「だいしほくえ

つホール」で行われまし

た。当日の様子をお伝え

する前に、コーディネー

ターとして開催までの経

緯をお伝えしたいと思

ます。10年前の開学20周年の講

座でも企画を務めたこともあ

り、まずそれとの違いをどうす

るか考えました。前回は会田誠

（画家）、斎藤美奈子（文芸評論家）、森達也（映画監督）とい

う方々の座談会としました。

「ことば」の力信じ深めよう

斎藤美奈子氏・武田砂鉄氏が激論

テーマは「新潟と国際と情報について」。お三人の積極的な発言からとても良い会になったと自負しています。



武田 砂鉄氏

斎藤 美奈子氏

コーディネーター 越智 敏夫

方々が関心をもつ内容を考えた結果、「ことば」をテーマにすることにしました。

テーマが決まつたら、今、ことばについてもつとも的確に発

言されてているのはライターの武田砂鉄さんだと感じていました

ので、登壇を依頼しました。そ

うなると武田さんのお相手として言葉のプロがあさわらしいのは

当然のことと、斎藤美奈子さん

に再登場いたくことにしました。

当日はお二人の熱のこもった

発言が続き、コーディネーターである越智の企画へのご批判も

さらに後半の質疑応答においては会場のみなさんから、かなり具体的で真摯な質問と意見が

続き、それらにもお二人からは丁寧な返答が発せられています。

申込み受付早々に定員に達した聴衆のみなさんも満足され

たことと思います。

学長 越智敏夫

実は今回も同じ顔触れで前回の続編とすることも考えました。しかしそれでは芸がないとどう気もしますし、テーマでも悩みます。そこで現代社会のあり方のなかで、なるべく多くの

含めて、遠慮のないことばの応酬となりました。

社会のなかの深刻な問題に対

して賛成でも反対でもなく、それを嘲笑するような態度がテレビやネット、場合によっては活

字メディアにおいてさえ

支持されているような状

況に対する批判が武田さ

んからありました。それ

らの結果、だいじなこと

をまともに議論しない状態が生

じているとのことでした。また

斎藤さんからも、単に相手の揚

げ足を取ることを論破だと言

張るような風潮のなかで、まと

もな議論をする難しさとその重

要性が指摘されました。

さらに

ては会場のみなさんから、かな

り具体的で真摯な質問と意見が

続き、それらにもお二人からは

丁寧な返答が発せられています。

申込み受付早々に定員に達

した聴衆のみなさんも満足され

たことと思います。

開学30周年記念事業

1994年4月に開学した本学は今年で30周年を迎える、「開学30周年記念事業」として公開討論会と二つのシンポジウムを開催しました。既に公開討論会「世界の語り方」と経営情報部シンポジウム「科学とAI」は盛況のうちに終了しました。その内容を報告するとともに、3月23日に予定している国際学部シンポジウム「新潟でつなぐ日本と世界」をご案内します。

経営情報学部シンポジウム 科学とAI

開学30周年を記念した経営情報

報学部主催のシンポジウム「科学とAI」が、11月23日、本学

新潟中央キャンパスで開催され

ました。

最初はBSNアイネット南雲彩花先生にハンズオンによるAI実践教育、次に新潟大学斎藤裕先生による学部生必修のデータサイエンス・AI教育動向のご

佐藤 泰子（国際文化学科・講師）

- （2023年11月12日）“Exploring Effective Paraphrasing Across Cultures: Theory into Practice without Generative AI by Ichi Konta (4th-year student) and Yasuko Sato.” 2023 Korea Teachers of English to Speakers of Other Languages (KOTESOL) National Conference (Kangnam University in Korea)
- （2023年12月3日）NUJI TOURISM PROJECT 学生動画コンテスト「NTP 観光・経営・言語学を融合させた学びと実践」佳作特別賞受賞（代表学生 国際学部4年市野瀬玲花／経営情報学部4年曾山日菜子）第27回日本国際観光学会全国大会学生動画コンテスト（東洋大学・白山キャンパス）

藤本 直生（国際文化学科・准教授）

- （2023年11月15日～17日）“Shuttling between language and content teaching: A collaborative autoethnographic inquiry.” Conference UKI170 (Universitas Kristen Indonesia, Jakarta). Online. Presented with John Adamson.

堀川 祐里（国際文化学科・講師）

- （2023年9月16日）「戦時期日本の働く女たち—ジェンダー—平等な労働環境を目指して（コメント：濱賀理事長 上野千鶴子氏）」第6回WAN博士論文報告会開催報告会認定特定非営利活動法人YIMIZEN アクションネットワーク【WAN】（オンライン報告）
- （2023年10月8日）「戦時期日本の働く女たち—ジェンダー—平等な労働環境を目指して（書評 分科会 著者によるリプライ）」社会政策学会第147回（2023年度秋季）大会（立命館大学）

吉澤 文寿（国際文化学科・教授）

- （2023年9月29日～10月1日）“Historical Analysis of a Diary - What Makes Him a Japanese

Activist for Friendship with Korea, 1932-1968,” The Midwest Conference on Asian Affairs (米国イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校)

3)委員・社会的活動・記事・その他

佐藤 泰子（国際文化学科・講師）

- （2023年10月17日）新潟市観光・国際交流部観光推進課主催「ダイアモンド・プリンセス号」クルーズ船受け入れへのボランティア通訳ガイド派遣と育成事業（新潟東港／新潟駅南／古町／万代地区）

藤瀬 武彦（経営学科・教授）

- （2023年10月21日・22日）第54回北信越学生陸上競技選手権大会 副大会長（長野市立陸上競技場）
- （2023年10月29日）第47回新潟県パワーリフティング選手権大会 審判及び陪審員（五泉市栗島ふれあい館体育館）

堀川 祐里（国際文化学科・講師）

- （2023年4月29日）書評：佐々木陽子『戦時下女学生の軍事教練』青弓社 2022年
- （2023年6月19日）2023年度第1回魚沼市男女共同参画推進委員会 男女共同参画に関する講義「性別にかかわらず、人間らしく暮らせる社会を構築するためにはいかなる試みが必要か考える」（魚沼市役所）
- （2023年10月21日）講演「今を生き抜くために知っておきたい『戦時期の働く女性たち』」男女共同参画市民団体協働事業「あなたが望む未来の作り方～流されない生き方とは～」（横越地区公民館）

講演をいただき、続けて本学中
田豊久准教授によるAI教育の

国際学部シンポジウム 新潟でつなぐ日本と世界

日 時：2024年3月23日(土)10:30～17:00
会 場：新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス講堂(9F)

参加費
無料
定員
120名



「ブラックホール観測と機械学習」のテーマで
講演する本間希樹先生

コロナ禍の後は、ロシア・ウクライナとパレスチナ・イスラエルの戦争の時代に私たちは遭遇しています。このような現代世界を、グローバル・ヒストリーの視点から議論します。
帝国主義と植民地主義からの解放、つまり脱植民地化の歴史をたどることによって、新潟と世界のつながりを考えます。講師は、フランス帝国主義からの独立をめざしたアルジェリア解放戦争を経験した、歴史家ダホー・ジェルバル氏と、アメリカの歴史家で日本の北陸とアジアの関係を200年という長いスパンの中で描くアンドルー・ゴードン氏です。世界史のグローバルな見方を体験しましょう。

プログラム

越智学長 開会あいさつ

第1部 10:30～12:30 〈司会〉吉澤 文寿

基調
講演
1

ダホー・ジェルバル氏(フランス語／通訳あり) 「アルジェリア西部オランの歴史： 都市における被植民者の植民地体験」

アルジェ大学元教授、現在アルジェ・ブザレア大学現代史講師、
雑誌『NAQD』編集長
(日仏通訳:ル・ルー ブレンダン氏 法政大学国際学部准教授)

基調
講演
2

アンドルー・ゴードン氏(日本語) 「日本の200年～北陸からアジア大陸へ」

ハーバード大学教授、専門:日本近現代史

休憩 12:30～14:00

第2部 14:00～16:50 〈司会〉佐々木 寛

[1]基調講演の内容を深める

第一コメンテーター／小山田 紀子、吉澤 文寿
第二コメンテーター／鈴木 佑也、堀川 祐里、アンナ・リューデ

[2]基調講演の内容を深める

プレゼンター(1)鈴木 俊弘「ニイガタからアメリカを見つめる:大学のなかで〈外国〉の文化や歴史を教える／学ぶことの意義」

プレゼンター(2)中村 貴

「個人から始める日中交流の可能性～『日中関係論』受講生の声
を事例として～」

※一部変更の可能性あり

開
学
30
周
年
記
念
事
業

講演と研究報告でディスカッション

最後は全脳アーキテクチャ・
イニシアティブ代表山川宏先生
に「超智能と人類の架け橋とし
てのヒト脳型AI」というタイ
トルで近未来に起こるであろう
ヒトの知能

画像復元に役立つ話を東京国立
博物館河野一隆先生に、今社会
を席巻するChatGPTがな
ぜ正確な生成ができるのかをB
SNアイネット市川健太先生に
お話をいただきました。

お話をいただきました。

をいたしました。

参加述べ人数は対面およびW
eb参加合わせて335人と盛
況のうちにシンポジウムを終わ
ることができました。

(経営情報学部長 藤田 晴啓)

教員の活動 (本人申告による)

1)研究論文・図書

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2023年10月) 渡部和雄「消費者の紙の出版物、電子出版物への意識と行動の分析と利用促進策」日本印刷学会誌 第60巻第3号 (305～313頁)

近山 英輔(情報システム学科・教授)

・(2023年10月) E. Chikayama et al. "Estimation of Radiation Damping Rates Using 133Cs, 7Li and 31P Solution NMR Spectroscopy and a Theoretical NMR RASER Model." Magnetochemistry, Vol.9 (221)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2023年9月) 「カンボジア—権力継承の行方」『外交』都市出版株式会社 第81号(78～79頁)
・(2023年11月) 「権力は移譲されたのか?—カンボジアにおける『世襲政権』の誕生」『IDEスクエア—世界を見る眼』日本貿易振興機構アジア経済研究所 (1～13頁)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

・(2023年8月) 「植民地支配責任と朝鮮人被爆者(朝鮮語)」民族文学史研究 第82号 (7～28頁)
・(2023年10月) 「或る日朝友好運動活動家の軌跡—日本朝鮮研究所事務局長の日記およびインタビュー記録を通して」在日朝鮮人史研究 第53号 (95～110頁)

2)学会・研究会・講演等

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2023年11月11・12日) 「紙マンガと電子マンガの読者動向」経営情報学会2023年全国研究発表大会(東京理科大学)

・(2023年11月13日) 「紙と電子マンガのインタビュー調査」2023年画像関連学会連合会第9回秋季大会(印刷学会第150回研究発表会)(名古屋大学)

木村 誠(経営学科・教授)

・(2023年11月11日・12日) 「AIプラットフォーム企業の循環的論理に基づいたビジネスモデルの枠組み」経営情報学会2023年全国発表大会(東京理科大学・富士見校舎)

小宮山 智志(経営学科・准教授)

・(2023年10月8日・9日) 「検索キーワードの共起分析による『健康意識』の変遷についての探索的研究」日本社会学会第96回大会(立正大学)

佐々木 宏之(経営学科・教授)

・(2022年9月8日～11日) 「非共感者はB-Blueか? 色と文字の結びつきによる視覚探索の促進」日本心理学会第86回大会(日本大学)

・(2023年9月15日～17日) 「教師の自律性支援—統制とメッセージフレーミング」日本心理学会第87回大会(神戸国際会議場)

台湾・語学センターで中国語を習得

台湾の銘傳大学から交換留学生が本学に来るなどを知り、自ら名乗りを上げて留学生アドバイザーを務めました。

背中を押し、それが台湾実習への決断となりました。

バスに乗つて単独行動

留学中（8月7日～9月1日）の主な活動としては、平日は語学センターで中国語を学び、休日は現地の人と会話をできる環境に積極的に飛び込みました。1人でバスに乗つて隣の人と話を食べたり、お店で現地の人と一緒に昼食を食べたり、失敗もたくさんしましたが、対話をする力が身につきました。

夏休みを活用した国際学部の「海外実習」と経営情報学部の「夏期セミナー」が実施され、海外実習（台湾、ニュージーランド、ラトビア）に10名、夏期セミナー（カナダ）に10名、合わせて20名の学生が参加しました。

プログラムを終えて帰国した学生の報告会が10月中旬に行われ、その中から2人の報告を紹介します。

私はカナダ夏期セミナーとして7月30日～8月27日

海外実習・夏期セミナー 報告会

の約1ヶ月間、カナダのエドモントンにあるアルバータ大学に留学をしました。

肌で感じた他国の文化

これができない肌で感じる他の文化や、現地の人の温かみは私の視野を広げました。

この留学を通じて語学力、国際的なコミュニケーション力の向上を目指して参加しましたが、自分の視野を広げることも目的の一つでした。

エドモントンではカナダの人とのコミュニケーションを通じて日本と違う歴史や、多民族国家ならではの考え方、意外な共通点など多くの気づきを得ることができました。

この留学を通じて語学力、国際的なコミュニケーション力の向上を目指して参加しましたが、自分の視野を広げることも目的の一つでした。

海外実習を検討しているみなさん、ぜひ、自ら一歩踏み出し、新しい世界、新しい自分を発見してください！ 自

分に100点満点をあげたくなること間違いありません。

（国際文化学科3年 小林歩未）

修了証書授与式を終えたクラスメートたち



（左下が小林歩未さん）

力ナダ・アルバータ大に1ヶ月留学



キンスメンパークで遊んでいた子供たち
(左下が加藤佑都さん)



第二部 懇親会

第一部の講演会では、講師のフリーアナウンサー河野景子氏が「心をつかむコミュニケーション」と信頼関係のつくり

当者らを招いて情報交換する「令和5年度企業懇談会」が11月22日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催され、245社から345人の方が参加しました。冒頭、あいさつに立った越智敏夫学長は「卒業生の姿そのものが新潟国際情報大学の実態であり、大学は卒業生でつくられている」と、日ごろの支援に対する感謝の言葉を述べました。

第二部の懇親会では、佐々木辰弥理事長が「常に学生を事件・事故から守るため危機管理を充実させ、今後も地道に努力していく」と決意を述べました。続いて、日本銀行の小林俊新潟支店長が乾杯の音頭をとり、企業・団体の人事担当者と本学教職員が、採用計画や卒業生の近況について話し合い、親睦を深めました。

245社・345人が参加 講演と情報交換で交流

講師のフリーアナウンサー河野景子氏が「心をつかむコミュニケーション」と信頼関係のつくり

日本労働社会学会奨励賞／女性史学賞

このたび、拙著『戦時期日本の働く女たち—ジエンダー平等な労働環境を目指して』（晃洋書房、2022年）が、第20回 日本労働社会学会奨励賞と、第18回女性史学賞の受賞作に選ばれました。

日本労働社会学会奨励賞は「会員の将来性のある優れた研究を表彰し、さらなる研究発展を支援するため」に2004年より選考されています。また、女性史学賞は文化勲章受章者の脇田晴子氏により創設され、これまで、女性史学の研究活動を奨励する目的で、佐藤泰子研究室のメンバーとして、佐藤泰子として継承されています。



受賞した
「戦時期日本の働く女たち」

日本労働社会学会奨励賞は「会員の将来性のある優れた研究を表彰し、さらなる研究発展を支援するため」に2004年より選考されています。また、女性史学賞は文化勲章受章者の脇田晴子氏により創設され、これまで、女性史学の研究活動を奨励する目的で、佐藤泰子研究室のメンバーとして、佐藤泰子として継承されています。

20回 日本労働社会学会奨励賞／女性史学賞の受賞作に選ばれました。

『戦時期日本の働く女たち』がW受賞

「奈良女子大学アジア・ジエンダーカラーチュアリティ女性史学賞」として継承されています。

拙著は、本学の共同研究費である出版助成と、2019年度科学研究費助成事業研究活動スタート支援により上梓することができました。現在、オックスフォード大学ボドリアン図書館やケンブリッジ大学図書館をはじめ125の大蔵図書館、多くの公共図書館にも所蔵いただ

き、2023年7月に第二刷を発行していただきました。本学の研究環境に感謝するとともに、栄誉ある賞に恥じないような研究を続けていきたいと思います。

（国際文化学科講師 堀川祐里）



第20回日本労働社会学会奨励賞の授賞式
左が受賞した堀川祐里講師(2023年10月)

5年度表彰奨学金授与式

令和5年度の表彰奨学金授与式を5年9月21日に開催しました。

表彰奨学金は、学業成績優秀者（前年度の学業成績が各学年・各学科において特に優秀である者）および課外活動功労者（前年度の課外活動において顕著な業績をあげた個人・団体）に対し、授与するものです。

【被表彰者は次の通り】

学業成績優秀者 (奨学金各30万円)	国際文化学科 6名 経営学科 6名 情報システム学科 3名
課外活動功労者 1件5万円(2名以上の 団体の場合10万円)	個人(パワーリフティング 全国大会出場等) 1名 団体(軟式野球部 全国大会出場等) 1組(11名)

越智敏夫学長より奨学金授与証書が手渡された後、激励の言葉が贈られました。授与された皆さん、おめでとうございました。

（学生委員長 吉澤文寿）

学生通訳ボランティア

国クルーズ船が新潟港に来港した際に、古町エリアでの道案内と当日開催された餅つきイベントでの逐次通訳を行いました。今

語学生かして古町ガイド

回が初めての

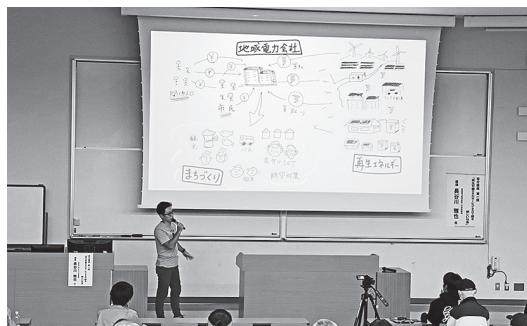


通訳ボランティアに参加した
学生たち(左端が小林蒼衣さん)

（国際文化学科
3年 小林蒼衣）

私は現在、NUIS TOURISM PROJECTのメンバーとして、佐藤泰子研究室にて、観光の魅力を県内外に広める活動を行なっています。その一環として、10月に外観の魅力を県内外に広める活動を行なっています。外国人観光客の方々に新潟の良いところを知っています。だけだと感じています。これからも新潟の魅力を直接伝えることができる機会を大切にして、今後も積極的にボランティア活動に取り組んでいきたいです。

自然電力(株)との連携寄付講座スタート



再生可能エネルギーで創る新しい社会、 長谷川雅也氏

マに、本
学学生を
対象に開
催。講師
自身のキ
ヤリア形成や、再生可能エネルギー
ーの可能性などについての講演の
後、ディスカッショ nを行いまし
た。

①再生エネルギー ②ローカル・ツー

本学と自然電力株式会社は、包括連携に基づく寄付講座(全3回)の2回目までを、無事終了しました。この講座は、双方の協働によって「課題を融合し解決する」、「地域社会に情報発信する」、「人材育成と新たな価値を提供する」を目的として、令和5年7月に締結した覚書に基づいて企画されま

1 再生エネジニアで創る新しい社会

2
ロード・カル・ツーリズムのこれから



地域コミュニティデザインにおける ファシリテーションスキルの理解、 古田秘馬氏

私は東南アジアの小国・カ
ルドに、独裁体制はなぜ、どう
を研究しています。この研究
に、2022年9月から1年
日本貿易振興機構ア
ジア経済研究所（通
称アジ研）に客員研
究員として受け入れ
ていただきました。

ジア経済研究所（通称アジ研）に客員研究員として受け入れ

アジ研でカンボジア政治研究

国際文化学科 准教授
山田 裕中

で見届けました。

化学科准教授 山田 裕史 まことに、さまざまな情報を得られる時代になりましたが、現場に足を運び、現地の人々から話を聞いたり、自分の目で確かめ



千葉工大の学生に
新潟の魅力をアピール

た。 学習者の 心理的・生 理的な状態 をサーモグ ラフィでモ ニタリング する手法の 開発に焦点 を当て、実

樂しみながらプログラミングスキルを向上させ
る可能性を追求しました。

これらの活動を通じて得た知識と経験は非常
に有益で、千葉工業大学での研修は貴重なもの
でした。今後は本学での研究、教育を深めつ
つ、これらの研究成果を活かしていきたいと考
えております。千葉工業大学、および貴重な機
会を頂きました新潟国際情報大学への感謝の意
を込めて、この場をお借りして心よりお礼申し
上げます。

千葉工大でプログラミング研究

際の学習環境での実験を通じてデータ収集と解析を行い、将来の教育応用の可能性を摸索しました。同時に、タイピングゲームの履歴からプログラミングの適性やスキルを推定する手

A black and white photograph showing three men in a room with a wall covered in various maps and diagrams. The man on the left, wearing a light-colored shirt and glasses, stands behind a large, light-colored metal cabinet with several locks. He is gesturing towards it. The man in the center, wearing a dark polo shirt and light trousers, has his hands clasped in front of him and is looking at the cabinet. The man on the right, wearing a light-colored shirt and glasses, is also looking at the cabinet. They appear to be in a discussion or examining the cabinet.

カンボジアで選挙監視活動に 参加した筆者(中央)

報は本物であります。力が違います。

験でした。国家選舉委員会の特別ゲストとして選挙監視活動に従事したり、多くの政治家や官僚から話を聞いたりしたほか、約39年間も首相を務めた独裁者からその長男への世襲という歴史的な瞬間を、国会で見届けました。

校として、
今年度後期

新潟市は2022年5月に「SDGs未来都市」に選定されました。その中心となる事業が「食と農のわくわくSDGs学習推進事業」です。本学はそのモデル

からつぎの2つのテーマからなるプログラムを、両学部あわせて10名の学生の参加を得て開始しました。

テーマ①
スマート農業のあり方と実践—ロボット、AI、IoT技術と農業—。

テーマ②
スマート農業のあり方と実業の創出と経営戦略。

地域資源を活用した6次産業の創出と経営戦略。

スマート農業・6次産業の創出

座学と現地調査の成果発表

今回のプログラムの成果実施され高い評価を得ました。なお、本プログラムは2024年度もさらに内容を充実させて継続する予定です。関心のある学生の皆様に練習に励んできました。

2024年度もさらに地域活性化や地産地消の視点からSDGsに関連する活動を行っており、今回はお米や食に興味を持つきっかけづくりとして、本学公認団体TFT-NUISの学生たちが中心となつて企画しました。

当日は合わせて29名の子供と保護者が参加し、学生たちと一緒に新聞紙やキッチンペーパーを使つてオリジナルのおにぎりを作成して交流を楽しみました。

また、完成したおにぎりの写真をSNSに投稿してアフリカ・アジアの子供たちに給食をプレゼントできる取り組み「おにぎりアクション2023」にも参加し、食の大切さを伝えました。

こどもワーキング



エンカレッジファーミングの現地調査で近藤史章さん(右端)の説明を聞く参加者たち

クラブ紹介 軟式野球部



他大学や
草野球チ
ーム、今
年は高校

軟式野球部は週1～2回程度活動を行っています。

軟式野球部は、講義編と現地視察から構成され、前者では新潟市の農業の現状と課題、スマート農業の現状と将来、6

2年連続での全国大会への出場はかないませんでした。しかし、1年生から4年生まで全学年で協力し、決勝戦では新潟医療福祉大学に2点差まで詰め寄せたこと、さらに富山県立大学に

全国大会での初勝利を託されてから1年、新入生も加わり新しい野球部として「全国大会初勝利」だけを目標に練習に励んできました。

新潟国際情報大学の強みである打撃力を發揮することができます。これが達成することができます。目標を達成することができませんでした。この悔しさを後輩たちも感じてくれたはずなので、来年度はいい報告が聞けるよう期待をしています。

目指すは全国大会の初勝利

は、どちら
も全国大会につながる大会です。

今年度はどちらも決勝で準優勝で終わりました。その後のプロック大会でも富

新潟医療福祉大学に惜敗しました。今年度はどちらも決勝で準優勝で終わりました。その後のプロック大会でも富

秋季新潟地区大会決勝

山県立大学に敗れたため、富

昨年、初めて出場した全国大会で全国とのレベルの差を実感し、先輩たちから

(情報システム学科)

4年 田辺 隼人



わあ～い できたぞ!
でっかい工作おにぎり



(社会連携室)

次産業の実践等について4人の講師の方々から講演いたきました。現地視察では、スマート農業や6次産業の最前線に立つ北区の高儀農園、西蒲区のエンカレッジファーミング、江南区のロイアルヒルホルスタインズを訪れて、実際にその施設を見学しながら、詳細な説明を聞くことができました。

エンカレッジファーミングのハウス農園8万本のミニトマトが栽培されています

本学とそら野テラス（新潟市西蒲区）との連携事業「工作おにぎりこどもワーキング」が、11月12日にそら野テラス

で開催されました。

ワークショ

ップは「作る食

べる・つながる

プロジェクト」

では、持続可能

な地域活性化や

地産地消の視点

からSDGsに

関連する活動を

行つており、今

回はお米や食に

興味を持つきっ

かけづくりとし

て、本学公認団

体TFT-NUISの学生たち

が中心となつて

企画しました。

当日は合わせて

29名の子供と保

護者が参加し、

学生たちと一緒に

に新聞紙やキッ

チンペーパーを

使ってオリジナ

ルのおにぎりを

工作して交流を

楽しみました。

また、完成し

たおにぎりの写

真をSNSに投

稿してアフリカ

・アジアの子供

たちに給食をプ

レゼントできる

取り組み「おに

ぎりアクション

2023」にも

参加し、食の大

切さを伝えまし

た。

